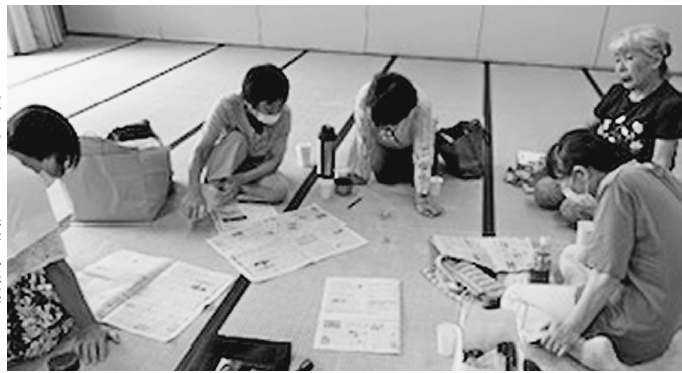


班会・しんぶんタイムが元気のもと!

大会目標達成へコツコツと 静岡・浜北支部



しんぶんタイム(菜の花班)

減らさず、班で仲間づくりを相談

浜北支部は9班あり、班会としんぶんタイムを大切に活動しています。前大会時現勢から会員で9人増え、全国大会目標達成へと奮闘中です。

前週の土台の一つは、大きく減らさないことです。各班で食事会や誕生会、新会員の歓迎会を開き、やりたいうことを持ち寄り、楽しくつなげる工夫をしています。高齢の人も楽しんで、やめる人はほとんどいません。各班がLINEなどで寄せられる班活動のようすを、毎週発行の支部ニュースで知らせています。さくら班は、「班会で顔を見ると安心する。今度は他の班のようすに食卓を



誕生会(あじさい班)

を開こう」と次の計画につながりました。班会が年数回だった班も他の班の活動に励まされ、毎月開催が8割に なっています。

支部委員会では、班活動の交流を大切にしています。仲間づくりは爆発的にはずみませんが、支部委員が班会で話題にする対象者が出され、班の企画や小組に誘い、少しずつ会員に迎えてきました。支部委員のLINEでの「増えたよ」の交流も励みになってい

ます。菜の花班は、見本紙を渡していた知人が班会に参加。共通の趣味の話で盛り上がり「いろいろ話せるのがいい」と入会。新しい会員を迎えたことで、どの班も生きいきとしています。

たんぼぼ班は新婦人しんぶんの「班で平和のスタンディング」をしている記事をきっかけに、「私たちも班でスタンディングをしたい」と、近くのスーパー

原爆展も「班から」に挑戦

1前で始め、毎月1回、3年続けています。昨年夏、支部で「平和のつどい」(創立当時の会員の戦争体験談・原爆の絵展)を開催。はこ班では、読者のAさんから沖縄に行ったときの思いを聞き「会員になって一緒に」と誘っての入会があり、12月には班主催で初めて平和のつどいを企画。役割を分担し、成功させました。

こたえることが何かできないか、模索しています。

核兵器廃絶や人道危機の問題では、「防衛のためには核が必要だ」と考える人もいて、そういう人たちにわかってもらえるように話すことができない」との話に、「メディアは紛争や戦争の真実を伝えてほしいね」と報道の姿勢に批判集中! 新婦人しんぶんの大切さを実感する機会にもなっています。

ひまわり班は班会で「被団協にノーベル平和賞」(11月2日号)を読んで、会員自身の戦争体験を聞く機会になりました。「静岡大空襲で、着の身着のまま逃げ、戻ってきたら何もかもなくなっていた」(ビキニ事件のあった後に全校集会で「原爆マクロ」の歌を歌った)など語られ、その後、「核禁条約に日本は参加を」の署名をみんなで広げることを確認。平和への思いは強く、被爆80年の今年は、班主催の「平和のつどい」をさらに広げようと意欲的です。

老いた母と向き合う

西田かおり(仮名)

一人暮らしで、持病から化膿性脊椎炎を発症し動けなくなった母(86歳)は、緊急入院してから約一カ月半で退院を促されました。

私たちの判断と母の情報をケアマネジャーのSさんに伝えたとこ

「介護付有料老人ホーム」への入居を提案されました。そこは慣れた地域で、体制もしっかりしていて、母にふさわしいと感じ、すぐに入所を決めました。コロナ感染の対策に、日本中が右往左往していた時期でした。

母の暮らしが楽になりました。30分程度かかりますが、母が幼い頃過ごしていた田舎の実家に近い位置にありました。

母は退院時には「寝たきり」で、「介護度5」と認定されて入所しました。当初は「錯誤」という状態で暴言などもあったようです。しかし、幸い入所してからは少しずつ体調や心理状態に変化

が表れました。施設の皆さんの適切な介護・食事管理、医療提供から、予想以上に糖尿病の数値も下がり、痛みも少なくなったようでした。ベッドから起き上がることもできるようになったのです。

コロナ禍でしたが、面会条件も少しずつ緩和され、母の友人も同行して面会すると、現在の自分の状況を少しずつ理解してきていることが伝わりました。生来話好きの母は、自室の近くの部屋に気の合う友人も見つけ、会話と交流を楽しんでいるようでした。そして日々自分と周囲への理解が戻ると、自宅への思いも募ってきました。畑仕事

の好きな母は、「自分の家に戻り畑仕事したい」という思いを電話で訴えるようになりました。

入所してから一年後、介護度認定は「介護度3」になりました。さらに気候も良くなり、時期をみて姉夫婦と私が同行し、母が入院してから初めて、半日の帰宅が実現しました。このとき母は、犬の世話も含めて母宅を管理している私に感謝してくれたのです。母が倒れ、入院してから

のストレスが解消した瞬間でした。



退院後は施設に入所した母

間でした。

(次回は3月1日号)

主張

1月24日、通常国会が始まりました。自公政権は衆議院で過半数割れし、予算案も法案も与党だけでは通せない状況に追い込まれています。今国会で問われるのは、自公政権が押し進める大軍拡の2025年度予算を許さないこと、また30年来「棚上げ」にしてきた選択的夫婦別姓制度の導入です。企業・団体献金の禁止も重大な焦点です。

石破政権が閣議決定した25年度予算案では、国民の暮らしは変わらない。軍事費は、過去最大の8兆7005億円で、文教関連予算の2・1倍、中小企業対策費の51倍に上ります。

大軍拡の中身も敵基地攻撃のための長距離ミサイルの配備実施や、次期戦闘機の開発・生産と輸出、

通常国会スタート 大軍拡予算ゆるさず、暮らしに！ 選択的夫婦別姓実現必ず

米国の高価兵器購入のローン払いなど、まさに憲法の平和主義を踏みにじる「死の商人国家」への道です。アメリカのトランプ新大統領は同盟国へのさらなる負担増を求めており、石破政権は日米同盟

の強化を表明しています。「安保3文書」で決めた大軍拡計画で、平和を脅かし、暮らしを押しつぶす政治にストップをかけるため、力を合わせましょう。

選択的夫婦別姓導入は、世論調査からも明らかのように焦眉の課題です。新婦人がおこなったアンケートには、わずか2週間で3937人の声が集まりました。同性を強制しているのは、日本だけです。願いを阻んできた自公政権が少数与党となった今こそ、ただちに導入を求め、運動をつよめていきましょう。

は、わずか2週間で3937人の声が集まりました。同性を強制しているのは、日本だけです。願いを阻んできた自公政権が少数与党となった今こそ、ただちに導入を求め、運動をつよめていきましょう。



スタンディング(たんぼぼ班)